

止めてもらったうえで、「大山グルメ食道」の商品として認めることにしています。

認められた店舗には、「大山グルメ食道」の登り旗を掲げてもらい、商工会は本当にいいもの、価値の高いものがあると宣伝していきます。

【議員】1年間取り組

まれた感想は。



【田宮副会長】昨年は

大山グルメ食道 現在の5店舗

- Mコロくん(エムマート)
  - 大山沖サザエの混ぜご飯の素(道の駅 大山恵みの里)
  - たまご屋が作る焼きドーナツ(たまご屋工房 風見鶏)
  - 大山ブルーベリーブッセ(洋菓子店 もえぎ)
  - 大山のフリフリかりんとう(山陰sacca)
- <http://www.daisen.jp/gourmet-shokudo/>

5店舗が実施され、今年度は新たに10店舗以上が手を挙げられており、ますます充実していくものと思っています。

先陣を切られた5店舗は、何も分からない状態で、本当にたいへんだったと思います。しかし、手ごたえは十



分にあり、真冬の試食会でも200食が2時間たらずでなくなったり、マスコミからも多数の取材を受けています。

【議員】今後の展望はいかがですか。

【田宮副会長】今年、新たに手を挙げられた事業者にはいいものを作ってもらうことに専念します。まずは町内

で、「大山グルメ食道」のしっかりとした基盤を作りたいと思います。その後、米子や琴浦との連携も視野に入れ、中から1つでも爆発的なヒット商品が生まれることも期待します。

【岸本会長】少しでも地元の事業者の収入アップにつながり、町が発展することを望みます。

町政への要望

【議員】最後に町政への要望などありますか。

【岸本会長】会員数の減少で、商工会費も減り、運営が厳しくなっ



ています。花火大会は4〜5千人集まるイベントになっており、商工会としても寄付集めに奮闘しているが、行政にもっと力をいれてほしいと思います。

ただ、行政だけでなく、農協や漁協、観光局、ブロッコリー井戸端会議など、多くの団体に、多方面から協力をいただいております。

取材を終えて

参加店舗が少なく、何をやるか手探りで始めたグルメ食道プロジェクト。まだ完成した商品は少ないが、「大山町を代表するものを作りたい」と「大山町を何とかしなくては」と熱く語ってくれた田宮副会長の思いがひしひしと伝わってきた。

地域振興をひとつの柱とする商工会の活動の発展を願わずにはられない。

